

2024年度 国際学部 高大接続入試【事前体験型】の講評

<8月7日(月)>

1.事前体験型講義について

事前体験型講義を92人の高校生が受講しました。午前は国際学科と言語文化学科それぞれの講義を受講し、午後は講義内容を踏まえた課題に対してレポートを作成しました。1限目では、講師の広告代理店での実体験を踏まえ、グローバルビジネスにおける「自ら問いを立てて探求心を持って進むこと」の重要性について学びました。2限目では、グローバル化に関する理論を用いて文化のグローバル化を具体的に検証する方法について学びました。

2.レポート作成について

事前体験型講義を受けた後に、高校生は以下の課題のどちらかを選択し、配付資料や講義時のメモを参考にレポートを作成しました。

[国際学科テーマ]

以下の(1)から(3)について、あなたのすべての回答の合計文字数が、2000字程度になるように記述して下さい。

講師(永石)は、自ら「問い」を立て、その「問い」に対する「これだ」という説を迷いながら探すような学び方が、大学において重要だと主張しています。

(1) 講師(永石)は、なぜ、そのような学び方が重要だと主張しているのでしょうか。講義内容を振り返りながらまとめて下さい。

(2) あなた自身は、そのような講師(永石)の主張に対してどのような意見を持っていますか。あなたの意見を記述した上で、あなたが「なぜ」そのような意見にたどり着いたのかについて、詳しく説明して下さい。

(3) 以下の2つの問いのうちから1つ選んで下さい。その問いに対する答え方として、あなたは、どのような説が有力だと思いますか。さらに、あなたの説が有力であるとする根拠について詳しく説明して下さい。

問いA: コンビニのサラダチキンは、誰が、どのような目的で買うことが多いのか。

問いB: 「蛙化」という考え方から、日本人は、人と人との関係性構築についてどんなヒントを得ることができるか。

[言語文化学科テーマ]

下記の1～3それぞれについて、番号を振って区別し、本日の講義資料を参考にして論述してください。2～3では同じ具体例を使っても、それぞれ異なる具体例を用いても構いません。

1. グローバル時代の英語はなぜ英語圏のネイティブ・スピーカーだけのものではなくなるといわれているのでしょうか？その理由を説明してください。(500字程度、配点10)

2. 文化がグローバル化するとき生じる一つ目の作用(同質化する作用)とは何かを具体的に説明にする問題です。この問題を答えるときには、講義で挙げられた以外の具体例を用いて、その事例がグローバル化するときこの作用がいかにかに生じるのかを論理的に説明してください。(1000字程度、配点20)

3. 文化がグローバル化するとき生じる二つ目の作用(差異化する作用)とは何かを具体的に説明する問題です。この問題を答えるときには、講義で挙げられた以外の具体例を用いて、その事例がグローバル化するときこの作用がいかにかに生じるのかを論理的に説明してください。(1000字程度、配点20)

3つの課題あわせて2500字程度

<10月22日(日)>

3.面接(口頭試問)について

面接では、まず、出願書類の内容に記してある志望理由と学修計画が、他大学や他学部・他専攻ではなくて「中京大学 国際学部 国際学科/言語文化学科の各専攻での学び」に強く結びつけているかの確認を行いました。さらに、入学後の具体的な学修計画や将来への目標についても質問しました。国際学部は語学教育や必修のセメスター留学など、独自のカリキュラムとなっているので、その内容を理解しているかどうかは重要なことです。多くの受験生が国際学部のカリキュラムを一定程度理解したうえで、入学後の学修計画を考えていることがわかりました。

面接対策は、聞かれたことへの応答の台詞作りを含めて事前対策ができますが、暗記した内容に固執するのではなく、試験官からの質問に対して素直かつ柔軟な回答ができる受験生を高く評価しました。また、高校までの期間に、海外での経験や、海外の人との交流がある場合は、それをどのように自分の考え方に結びつけているか、といった点も確認しました。国際学部は人文科学と社会科学の広い学問分野にわたる専攻に分かれており、学問分野の相違によって各専攻での教育内容に違いがあります。受験生は、ウェブページや大学案内、学部のパンフレットなどの資料で十分に調べ、不明な点がある場合は、オープンキャンパスなどを活用して疑問点を明らかにすることをお勧めします。